

# 復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二ひきの馬が、まどのとこでぐうるぐうるとひるねをしていました。

すると、すずしい風がでてきたので、一ぴきが①くしゃめをしてめをさしました。

ところが、あとあしがいつぽんしびれていたの、よろよろとよろけてしまいました。

「おやおや。」

そのあしに力をいれようとしても、さっぱりはいりません。

そこでもだちの馬をゆりおこしました。

「たいへんだ、あとあしをいつぽん、だれかにぬすまれてしまった。」

「だって、ちゃんといっているじゃないか。」

「いやこれはちがう。だれかのあしだ。」

「どうして。」

「ぼくの思うままに歩かないもの。ちよつとこのあしをけとばしてくれ。」

そこで、ともだちの馬は、ひづめでそのあしをぽんとけとばしました。

「やっぱりこれはぼくのじゃない、いたくないもの。ぼくのあしならいたはずだ。よ

し、はやく、ぬすまれたあしをみつけてこよう。」

そこで、その馬はよろよろと歩いてゆきました。

「やア、いすがある。いすがぼくのあしをぬすんだのかもしれない。よし、けとばしてや

ろう、ぼくのあしならいたはずだ。」

馬はかたあしで、いすのあしをけとばしました。

いすは、いたいとも、なんともいわないで、こわれてしまいました。

馬は、テーブルのあしや、ベッドのあしを、ぼんぼんけつてまわりました。けれど、ど

れもいたいといわなくて、こわれてしまいました。

いくらさがしてもぬすまれたあしはありません。

「ひよつとしたら、あいつがとつたのかもしれない。」

と馬は思いました。

そこで、馬はともだちの馬のところへかえつてきました。そして、すきを見て、ともだちのあとあしをぽんとけとばしました。

するとともだちは、

「いたいッ。」

とさけんでとびあがりました。

「そオらみる、それがぼくのあしだ。きみだろう、ぬすんだのは。」

「この②とんまめが。」

ともだちの馬は力いっぱいけかえました。

しびれがもうなおっていたので、その馬も、

「いたいッ。」

と、とびあがりました。

そして、やっこのことで、じぶんのあしはぬすまれたのではなく、しびれていたのだとわかりました。

\*①くしゃめ…くしゃみ

\*②とんま…まぬけなこと

(新見南吉「あし」より)

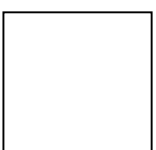
(1) 「そのあし」とは、何をさしていますか。次の1から4までの中から一つ選び、その番号を書きましょう。**レベル4・5**

- 1 いすのあし
- 2 ひきの馬のあし
- 3 ぼくのあし
- 4 ベッドのあし



(2) ともだちの馬に自分のあしをけられて、どんなことがわかったのですか。次の1から3までの中から一つ選び、その番号を書きましょう。**レベル4・5**

- 1 自分の足はぬすまれたのではなく、しびれていたのだということ。
- 2 自分のあしをぬすんだのは、ともだちだったということ。
- 3 自分のあしはぬすまれたのではなく、いすのあしと入れかわっていたということ。



埼玉県立学習支援センター



# 復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前

## 【情報を読み取る問題】

- 1 次の文章を読んで、問題に答えましょう。

とうとう、ぼうし屋がみつかりました。お母さんが道々よく教えてくれた、黒い大きなシルクハットのぼうしのかん板が、青い電灯にてらされてかかっていました。子ぎつねは、教えられたとおり、トントンと戸をたたきました。

「こんばんは。」

すると、中では何かコトコト音がしていました。やがて、戸が一すんほどゴロリと開いて、光のおびが、道の白い雪の上に長くのびました。

子ぎつねは、その光がまばゆかったので、面くらって、まちがったほうの手を、——お母さんが、出しちゃいけないと言ってよく聞かせたほうの手を、すき間からさしこんでしまいました。

「このおててにちょうどいい手ぶくろ、ください。」

すると、ぼうし屋さんは、おやおやと思いました。きつねの手です。きつねの手が、手ぶくろをくれと言うのです。これはきつと、木の葉で買いに来たんだなと思いました。

（出典 新美南吉「手ぶくろを買いに」）

- 問 「まちがったほうの手」とは、何の手ですか。文章中から、五文字で書きぬきましょう。  
レベル5・6

--	--	--	--	--



# 復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前
<b>模範解答</b>		

【本文省略】

(1) 「そのあし」とは、何をさしていますか。次の1から4までの中から一つ選び、その番号を書きましょう。**レベル4・5**

- 1 いすのあし
- 2 ひきの馬のあし
- 3 ぼくのあし
- 4 ベッドのあし

3

○3行目「あとあしがいつぼんしびれていたの」・5行目「力をいれよう」として  
も、さっぱりはいりません。」に注目しましょう。  
○5行目と問題の「そのあし」は、ぼくの、しびれているいつぼんのあとあしの  
ことを指しています。

- (2) ともだちの馬に自分のあしをけられて、どんなことがわかったのですか。次の1から3までの中から一つ選び、その番号を書きましょう。**レベル4・5**
- 1 自分の足はぬすまれたのではなく、しびれていたのだということ。
- 2 自分のあしをぬすんだのは、ともだちだったということ。
- 3 自分のあしはぬすまれたのではなく、いすのあしと入れかわっていたということ。

「そして、やっとのこととで、じぶんのあしはぬすまれたのではなく、しびれていたのだとわかりました。」の文に着目して考えましょう。

1



# 復習シート 第四学年 国語



組	番号	名前
模範解答		

## 【情報を読み取る問題】

- 1 次の文章を読んで、問題に答えましょう。

とうとう、ぼうし屋がみつかりました。お母さんが道々よく教えてくれた、黒い大きなシルクハットのぼうしのかん板が、青い電灯にてらされてかかっていました。子ぎつねは、教えられたとおり、トントンと戸をたたきました。「こんばんは。」すると、中では何かコトコト音がしていましたが、やがて、戸が一すんほどゴロリと開いて、光のおびが、道の白い雪の上に長くのびました。子ぎつねは、その光がまばゆかったので、面くらって、まちがったほうの手を、——お母さんが、出しちゃいけないと言ってよく聞かせたほうの手を、すき間からさしこんでしまいました。「このおててにちょうどいい手ぶくろ、ください。」すると、ぼうし屋さんは、おやおやと思いました。きつねの手です。きつねの手が、手ぶくろをくれと言うのです。これはきつと、木の葉で買いに来たんだなと思いました。

（出典 新美南吉「手ぶくろを買いに」）

問 「まちがったほうの手」とは、何の手ですか。文章中から、五文字で書きぬきましよう。**レベル5・6**

き	つ	ね	の	手
---	---	---	---	---

「まちがったほうの手」が他の言い方で書かれている言葉を探します。「五文字で書きぬきましよう」という指示があるので、「きつねの手」が答えとなります。

